

**【表題】** 第44回 山口県学校環境衛生研究大会 報告  
～健康で快適な学校環境を目指して～

大会実行委員長 小林晃子

大会実行副委員長 尼崎美奈子(報告)

日 時：令和3年8月19日(木) 10:00～16:20

会 場：山口県総合保健会館 2F 多目的ホール

開催方式：完全 Web 方式 (Zoom ウェビナー使用)

**【概要】** 昨年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策のために延期となったが、今年度は完全 Web 方式を採用することにより、山口県教育委員会との共催にて円滑に開催された。山口県薬剤師会学校薬剤師部会としては、山口県薬剤師会との一体化後、初の開催となった。

**【参加者】**

全体	205名 (ウェビナー)
内訳：薬剤師	131名 (県内59名、県外72名)
養護教諭	43名
栄養教諭	8名
教諭	7名
その他	15名 (給食センター職員等)

**【大会内容】**

1. 特別講演 演題「薬剤師のアンチ・ドーピング活動と教育現場での現状」  
講師 原 博 先生  
東京薬科大学 理事  
東京都薬剤師会 相談役  
日本薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会委員
2. 研究協議会 第1課題 保健委員会・理科薬品・プール水質・学校環境衛生  
第2課題 給食  
第3課題 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育・くすり教育

## 【大会要旨】

### 1. 特別講演 「薬剤師のアンチ・ドーピング活動と教育現場での現状」

東京薬科大学理事 原 博 先生

はじめに、アンチ・ドーピングを理解するための用語解説を丁寧にしていただいた。ドーピングの定義、WADA(World Anti-Doping Agency)、TUE(Therapeutic Use Exemptions)、うっかりドーピングなどを、歴史的背景や誰しも記憶に残っている過去のアンチ・ドーピング規則違反事例を交えながらわかりやすく説明された。



一般に家庭にあるような、日常的な塗り薬のような医薬品や、サプリメントについても、禁止物質が含有していることがあり、アスリートは常に注意を払っている。ところが、選手のもらう禁止表には必ずしも統一した物質名で記載されておらず、わかりにくいのが、薬剤師は構造式から物質を判断することに慣れているため、こういうことは活躍できる場面である。また薬局での有効なコミュニケーションを通じてうっかりドーピングを未然に防ぐ手助けも可能となることを話された。

スポーツファーマシストは、アスリートの身近なアドバイザーであると同時に、アンチ・ドーピングを普及していく活動が期待されている。学校薬剤師は、薬物乱用防止教室実施の経験があり、薬物乱用防止の一環として若い世代にも啓発して行くことが必要である。

最後に、近年急速に普及し、世界大会も行われている e スポーツについて、すでにアンチ・ドーピングの取り組みが開始されていることを紹介し、濫用される薬物が出現する前に、早くからアンチ・ドーピングの意識づけをしていくことが重要であると話された。

### 2. 研究協議会

#### (1) 第 1 課題 (保健委員会・理科薬品・プール水質・学校環境衛生・感染症予防対策)

周南市立桜木小学校養護教諭 黒葛原紗智先生は、児童の意見を保健委員会活動に反映することにより、自主的にけがの発生の予防を促し、昨年度は感染症予防対策へとつなげた取り組み事例を紹介。校内けが MAP、安全標識の作成や、「保健ポリス」、「換気大臣」など、興味を引く名称で子どもたちの取り組み意欲を向上させる工夫もあった。今年度は感染予防対策が学校全体、家庭との連携へとつながった。

理科薬品管理については、山口県教育庁高校教育課 竹重和哉先生から、管理の徹底を確実にするための要点解説があった。法令で規定されている帳簿管理が正しく行われていることが管理の大原則である。山口県教育委員会作成の「適正な理科薬品の管理と安全な理科実験の手引き」が安全な管理の助けとなる。また爆発物の原料となり得る特定化学物質についても帳簿管理とするよう指導があった。

続いて、四国化成工業（株）堀康弘課長より、感染症対策を念頭に置いて、毎日のプール水質管理についての解説があった。プール設備構造を明示して理解させ、中でも塩素濃度・pHの管理についての話では、酸性側に傾くと殺菌力は上がるが、ろ過機のさび問題が生じ、アルカリ性側に傾くと殺菌力が低下し、藻の発生へとつながることの説明があり、日常点検項目のひとつひとつ、プール管理日誌の重要性を考えさせられた。

山口県薬剤師会学校薬剤師部会 尼崎美奈子理事が、山口県学薬で実施した感染対策機器設備アンケートについて報告した。学校、認定こども園では、空気清浄機の導入件数が多かったが、空気清浄機のイオン放出機能等によるウイルスの低減効果については期待せず、あくまでも窓開け換気不足の場合の補完として使用するよう注意喚起した。またオゾン発生器、次亜塩素酸水の空間噴霧の危険性について、あらためて注意を促した。

最後に、日本薬剤師会学校薬剤師部会長 富永孝治先生から、「学校の安心・安全を考えるうえでとてもいい内容だった、デルタ株の蔓延に伴い、逼迫した状況下であるが、学校薬剤師を活用して対策して欲しい。」との助言があった。

## (2) 第2課題（給食）



下関市立文関小学校栄養教諭 西岡涼子先生より、給食室における衛生管理の取組について発表があった。「学校給食調理場における手洗いマニュアル」に基づいた確実な手洗いとアルコール消毒、作業区分ごとにエプロンの色分け、工程ごとに食品の温度測定をして記録に残すこと等、衛生管理を徹底して行っている調理作業の実際を紹介された。また、学校薬剤師の定期検査時、釜の取っ手部分が大腸菌群陽性になった際には、再度洗浄するだけでなく、原因の追究と再発防止策を考え、新たな工夫により排水方法を構築するなど、学校薬剤師との理想的な連携も見られた。今後も関係機関と連携しながら、安全・安心な給食の提供に努める。

次に山口県薬剤師会学校薬剤師部会 中村光宏理事が給食関連における新型コロナウイルス感染症予防策について発表した。学校給食

は感染リスクの高い活動であることと同時に、感染リスクに配慮しながらも継続することが望まれていることから、学校給食の場面ごとに児童・生徒の感染予防対策要点を再度確認した。また、新型コロナウイルスの特性を示し、給食室ではこれまでと同様の衛生管理を確実に実施していくことで、新型コロナウイルスの感染対策になることを解説した。学校薬剤師自らも、健康状態、検査時の服装等、衛生的配慮に十分注意し、業務に当たらなければならない。コロナ禍により、児童生徒や教職員の衛生管理についての意識が向上していることで、逆に食の安全に関する指導が行いやすい環境であり、学校とよく連携して衛生に関する積極的な情報発信をお願いしたい。

### (3) 第3課題（喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育・くすり教育）

山口県健康福祉部薬務課麻薬毒劇物班 奥田千春技師より、近年全国的な広がりを見せている大麻汚染を防ぐため、薬物乱用防止教室の効果的な実施方法についての紹介があった。学校側と講師とが事前によく連携することがより効果的な指導につながる。また講師によって得意分野が異なるため、学校側の希望内容に沿った講師を選択することが必要である。

次に山口県薬剤師会学校薬剤師部会 河添真一副部会長がくすり教育の推進と学校薬剤師の活用について説明。チームティーチング(T.T.)での指導が望ましいといわれているが、くすり教育への参加率は低い。学校薬剤師は学習指導要領を確認し、くすり教育に関して学校薬剤師がかかわることの重要性を学校側に働きかけることが必要である。養護教諭をコーディネーターとし、保健体育教諭と連携して進めていくことがこれからの課題である。日本学校保健会、日本薬剤師会学薬部会、くすりの適正使用協議会のホームページにくすり教育の資料が多くあるので、是非活用してほしい。

最後に、岩国市立河内小学校養護教諭 木原紀子先生が小学校におけるくすり教室の取り組みについて発表された。児童の薬の使用状況について、決められた時間に飲まなければならない薬を飲み忘れたり、兄弟で同じ薬を飲んだりすることを耳にすることもある。児童が薬の正しい知識を身に付け、用法・用量等を守って薬を扱うことができるように次のような取組を実施した。

(1) 年間計画への位置づけ：全教職員への理解

(2) 学校薬剤師との連携

(3) 小中の連携：養護教諭同士の学びの機会や情報共有

児童は薬の専門家である学校薬剤師の話真剣に興味をもって聞くことが出来ていた。そして、日頃から正しい薬の飲み方をしようとする意識の変容がみられた。保護者も薬の取扱いについて気をつけていこうとする意識の高まりを感じ、また、薬剤師という仕事の一部を知るキャリア教育の面からも貴重な学習の機会になった。

くすり教室で学んだ知識を日常生活での行動に結びつけることが出来るよう保健指導を工夫していく必要がある。中学校の学びの基礎となるように、9年間の育ちを見据

えた系統性のある指導にしていくことが必要である。

#### 【大会参加者の感想より】

- ・プール設備など専門的なことを詳しく聞けてよかった。
- ・保健委員会の熱心な取り組み、薬品管理上の注意点、塩素剤の特性、感染症対策設備機器アンケートの結果と消毒等の注意点などについて、大変興味深く、また、参考になりました。
- ・給食関連での新型コロナウイルス感染予防対策という、新たな視点が大変勉強になった。
- ・給食関連でのコロナ対策もこれまでにやってきていることをきちんと励行できていれば問題ないことを学べた。
- ・講演内容がオリンピック開催時期のタイミングはとても具体的で解かりやすくお話をいただき薬教育に関連した内容は特に参考になりました。また学校向けの指導内容もご提示いただきとてもよい研修の機会を得ました。
- ・薬物乱用防止教室かおくすり教室にアンチ・ドーピングについての内容を盛り込んでいこうと思いました。eスポーツもドーピングに気をつけないといけないということには、子供たちにも大変興味があることだと思いました。
- ・全国大会にも引けを取らない内容でした
- ・山口県学校薬剤師会の上記の取り組みは学校と一体で進められており、それらの活動に敬服しました。
- ・この研修会の開催に深く感謝いたします。申し込み方法、各先生の発表内容はもちろん、リモート開催、資料配布のタイミングなど、本当にきめ細やかに準備されたものと思います。全国に呼び掛けてくださり、研修会がほとんどない現在、貴重な機会になりました。

開催方法の変更に伴い、何度もリハーサルにお付き合いいただいた講師の原先生をはじめ、各発表者の皆さま、県内外からご参加いただいた先生方、県教委の先生方、学薬部会、そして通信回線管理された事務局の皆様にご心より御礼申し上げます。

#### 【大会運営組織】

山口県薬剤師会学校薬剤師部会  
山口県教育庁学校安全・体育課  
山口県薬剤師会事務局

